令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 森丘　保典

研究課題名	競技スポーツのトレーニング実践における量的・質的情報の効果的な収集・分析および活用方法に関する研究
研究目的及び研究概要	競技現場に無数に存在する断片的な情報（インフォメーション）を、コーチングにおける判断や行動に対して何らかの指針や方向性を与えてくれる情報（インテリジェンス）へと昇華させるためには、明確な目的意識を持った情報（データ）の収集と蓄積、そして目標の達成に向けた分析が必要となる。 本研究では、コーチング及びトレーニング現場において収集した量的、質的情報（データ）を効果的に活用するためのデータ収集及び分析方法を検討するための基礎的資料を得ることを目的とする。特に、国内一流競技者の若年期以降の競技パフォーマンスの変遷および育成・強化のプロセスについて、量的・質的研究手法を用いて明らかにしながら、効果的な競技者育成・強化システム（モデル）の構築に資する基礎的資料を提示することを目的とする。 ①各種競技会において映像情報を中心とするパフォーマンス分析を行い、量的・客観的情報（データ）を収集・分析する。 ②競技者のスポーツ歴（競技ヒストリー）について、半構造化面接法などを用いたインタビュー調査を行い、質的・主観的情報（データ）を収集・分析する。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	①日本および世界一流陸上競技d者における若年期からのシーズンベスト記録およびレースパターン（ペース配分）の変遷を手がかりとして、国内外の一流競技者が若年期からシニア期にかけてどのように競技パフォーマンスを向上させているのかについて検討した。 ②日本一流陸上競技者に対する詳細なインタビュー（in-depth interview）を実施し、質的なデータ分析法に基づく動機づけ（意欲）要因、努力要因および人的・物的（環境）要因などの検討により、若年期（ジュニア）からシニアに至るまでの多様な競技プロセスを明らかにした。 今後は、インタビュー調査などを追加実施しながら、育成・強化システム（モデル）構築に向けた情報を収集・分析することが課題となる。 ・論文①：森丘保典「競技者育成とフィジカルリテラシー：日本陸上競技連盟の考え方と取り組みについて」子どもと発育発達、23(2)：89-93. ・論文②：柴山一仁、大橋祐二、貴嶋孝太、杉本和那美、森丘保典「110mハードル走選手の区間タイム変化にハードル高が及ぼす影響：高さ1.067mと0.990mの規格による比較から」体育学研究、70：833-842. ・論文③：森丘保典「アクティブ・チャイルド・プログラムが育むフィジカルリテラシー」 体育科教育、73(10)：63-65. ・著書①（分担執筆）：測定スポーツのコーチング学：計測競技の比較理論（第4章「測定スポーツのトレーニング」執筆）、日本コーチング学会、大修館書店、43～73ページ、2026年3月9日 ・著書②（分担執筆）：ランニング学事典（編集および2項目執筆（第4章1項：トレーニング原理・原則、第6章12項：MART））、ランニング学会、朝倉書店、130～131；220～221ページ、2025年10月3日 ・学会発表①（シンポジウム）：森丘保典「子どもとスポーツの未来を育む『遊び・楽しさ・すばやさ』発育期のスポーツ活動と競技者育成」第31回SAQシンポジウム、2026年1月24日、日本女子体育大学 ・学会発表②（一般発表）：石塚真海、森丘保典「陸上競技男子 400m 走における競技パフォーマンス発達過程の検討：400m 走年次別記録の推移などに着目して」日本コーチング学会第37回大会、2026年3月5日、日本大学 ・学会発表③（シンポジウム）：鈴木修人，森丘保典「プロスポーツチームのコーチは選手の何を見ているのか：優れたユース選手の選抜と育成の観点」日本発育発達学会第24回大会、2026年3月7日、茨城大学